



町のすがた

(7月1日現在)

第268号

人口 男 3,330人 (-8)  
 女 3,563人 (+6)  
 計 6,893人 (-2)  
 世帯数 1,712 (±0)  
 ( )は6月1日との比較

平成2年7月11日  
 発行 新潟県三島郡三島町役場  
 ☎ (0258) (代) 42-2221  
 印刷 長岡市 あかつき印刷

# 45年ぶりの再訪



▲表敬訪問した中国黒竜江省五常市  
 杜家村役場前で。  
 後列左から2番目が小川さん、5  
 番目が諏訪田さん。前列、右から  
 6番目が杜家村の村長さん。

▶開拓団員が住んでいた住居は、当  
 時のまま。今でも、中国の農民が  
 実際に生活しています。



戦前、日本は国策のひと  
 つとして、中国大陸へ次々  
 と開拓団を送り込みました。  
 昭和二年、新潟県から  
 も中国(満洲)黒竜江省五  
 常市杜家村へ開拓団として  
 三〇世帯が送り込まれまし  
 たが、終戦(昭和二〇年)  
 を向かえ、本国へ帰還され  
 たとのこと。  
 当時、その開拓団の一員

として中国へわたった諏訪  
 田甚一さん(新保)と小川  
 五郎一さん(脇野町)は、  
 このほど、大陸で戦争の犠  
 牲となった開拓団の同志七  
 八名の慰霊のため、四五  
 年に訪中されました。  
 当時はまだ未墾の地であ  
 った現地も、今では用水路  
 が引かれ、豊かな水田地帯  
 となっていたそうです。

## 季節風

暑い夏の日、一天にわかにかきくもって、「稲妻」がひらめき、「雷」がどろどろとあります。発達した積乱雲によって、急に電光・雷鳴とともに強い雨が降る「夕立」は、多く夏の夕方近くに起こることから付いた名称。「立つ」は「風立つ」「虹が立つ」などのように、それまで見えなかったものが急に出現する現象をさします。

「雷」は、雲と雲の間に生じる放電現象で、ゴロゴロという雷鳴を伴いますが、古来、虎の皮のふんどしをした雷神が太鼓を鳴らす「神鳴」と考えられてきました。歌舞伎十八番の題名「鳴神」も同義語です。

また「雷」は「いかずち」ともよみます。これは、いかめしい霊(ち)の意。古代人は雷神を、強い威力をもつ存在として恐れていたことがわかります。

放電現象の際に発する雷光を「稲妻」と呼ぶのは、稲が雷と交わることで穂をはらむと考えた古代の信仰に基づくもの。「つま」は、男女ともに結婚相手をさす言葉でした。「稲妻」の語には、農耕民族としての永い歴史が刻まれているわけです。

# 夏の食中毒防止 キャンペーン展開!!

## ’90クリーンサマー三島

毎年、夏には各地で細菌性中毒が多く発生します。そこで今年も三島郡からの食中毒発生0をめざし、「クリーンサマー三島」をテーマに長岡保健所、郡内町村等の協力を得て夏の食中毒防止キャンペーンを展開することになりました。

食品営業者はもちろん、住民のみなさまからも御協力をお願いします。

\*期間 7月16日～9月19日

\*標語 “新鮮材料・清潔調理・冷却保存”

\*主な事業

- 腸炎ビブリオ情報の発行  
海産魚介類に付着し夏の代表的な食中毒菌であるビブリオの検査を行い、関係者に情報を提供し注意を呼びかける。
- 食中毒防止ポスターの配布  
保健衛生対策協会、食品衛生協会により全世帯にポスターを配布します。
- 巡回指導  
保健所の食品衛生監視員と食品衛生協会の指導員で食品営業施設を巡回し、現場指導を行います。
- クリーンデーの設定  
7月20日と8月10日を全食品営業者による一斉清掃日とします。
- キャラバンによるPR  
クリーンデーに併せ、キャンペーンギャルをはじめ関係者により食品営業施設を廻り食中毒防止を呼びかけます。



〔三島郡食品衛生協会〕

## 今月の納税

- \*固定資産税 第二期分
- \*国民健康保険税 七月期分
- \*国民年金保険料 七月分
- \*水道使用料 六月分
- \*ガス料金 六月分

萩焼を水に馴染ませ梅雨晴間  
 新馬鈴薯を蒸かせば浮かぶ父の顔  
 朴の花溪行く川の水の音  
 七変化とよく名付けたり留守を守る  
 紫陽花の雨含むたび丸くなり  
 山開き馴染みの顔の揃ひけり  
 朱の鳥居万緑にうきバスの行く  
 湯の宿の水草ゆるりと梅雨晴間  
 揺れ椅子に揺れて風知る七変化  
 紫陽花や棟上げ式の人の群れ  
 札所寺前一望の青田かな  
 梅漬けて甕のくらさを埋めにけり  
 鳶の輪の中に武者風座りけり  
 浴衣着て他人行儀に振舞へる  
 郭公や風化のしるき無縁墓  
 山雲の緑ひと色に盛りあがり  
 黒南風や雨のち晴といふ予報

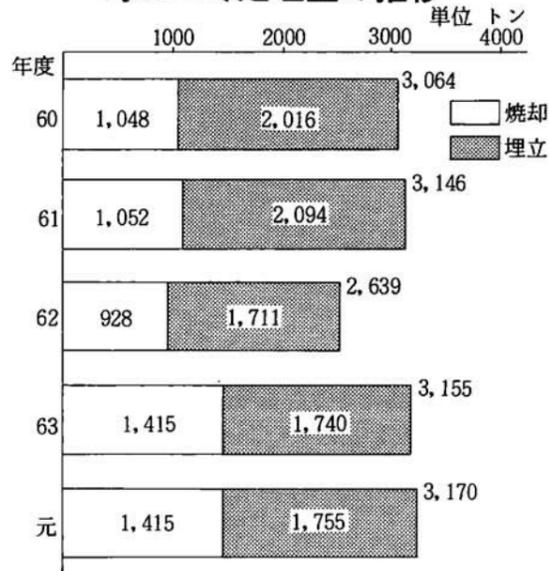
大滝 藤素木  
 遠藤 清津  
 木戸 恵一  
 名塚 雅子  
 桜井 雅子  
 小林 雅子  
 安達 南風  
 丸山 義成  
 小川 礼子  
 結城 老松  
 棚橋 比呂志  
 遠藤 枯骨  
 尾竹 花翠  
 小林 雪子  
 中村 遊雲  
 難波 千代女  
 原 峰子

## 俳句

### 文芸



### 町のゴミ処理量の推移



# 家庭から始めよう

わたしたちが出す古くなったゴミなどには、粗大ゴミと呼ばれるものがあります。これらの特徴は、修理すれば使えるものが少なくないということです。ゴミとして捨てるのではなく、資源として有効にリサイクル(再利用)してみませんか。リサイクルには次の三つの利点があります。

①ゴミの減量に役立つ  
②資源を大切にすることを育てる

## 3、使えるものはリサイクルしよう

③地域のコミュニケーションを深める  
地域の集団回収や不良品交換会などを積極的に利用したいものです。

## 4、資源ゴミの再利用は地球の資源を守る

資源ゴミの中でも、紙類と金属類は特に再利用の路が大きいのが特徴です。これらはどのように再利用されるか、わたしたちの手に戻ってくるのでしょうか。



○紙類  
不用になった新聞や雑誌などの古紙は、再生紙として利用され、同じように新聞や雑誌、ダンボールなどに生まれ変わります。  
例えば、家庭で出る新聞一年分(七十kg)をゴミ処理した場合、約千六百円の費用がかかります。しかし、

### ゴミの区分と出し方

ゴミの種類	出し方
燃えるごみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台所ゴミ よく水を切って新聞紙等に包み、ビニール袋に入れて、口をしぼってください。特にスイカの皮は、包丁目を入れるなど、できるだけ水気をなくしてから出してください。</li> <li>・紙くず 木くず等の長いものは、長さ50cm位に切って直径30cm位のたばにして、しぼってください。(1本の直径は10cmまで)</li> <li>・木くず 木製家具等は、小さくこわして(50cm位に)しぼってください。</li> <li>・木製家具類 焼鳥等の串棒は、折るなどして危険のないようにして出してください。</li> <li>・布類 綿ふとんは、布地をはいで綿を座ぶとんくらい大きさに切って、それぞれしぼるか袋に入れて出してください。</li> </ul>
燃えないごみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属類 スプレー缶は、穴をあけて残りガスを抜いてください。</li> <li>・空缶類 ガスレンジ(家庭用)は、点火装置をはずしてください。</li> <li>・小型家電製品 石油ストーブは、油と電池を抜き取ってください。</li> <li>・ガラス類 ガラスくず等は、収集の危険のないよう袋に入れて出してください。</li> <li>・陶磁器類 煉炭・豆炭の灰は、必ず水をかけて完全に火を消してから袋に入れて出してください。</li> <li>・その他 石油科学製品 プラスチック類 内容物の付着した容器等は、水洗いして袋に入れて出してください。</li> </ul>
粗大ごみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スチール家具類 買い替えのときは、できるだけ業者に引き取ってもらってください。</li> <li>・家具類</li> <li>・大型家電製品類</li> </ul>

※ごみは「燃えるごみ」「燃えないごみ」「粗大ごみ」に分けて決められた収集日に出してください。



役場では、コピー用紙として再生紙を使っています

# “ごみ・ダイエット”



平成元年度町決算(見込み)によると、町でゴミ処理のためにかけた経費の総額は約八、一六八万円でした。  
この金額は、一日あたりで見ますと約二万四千円かかったことになり、また町民一人あたり一万二千円が必要ということになります。  
年間八、一六八万円のお金は、三、一七〇円の「ゴミの値段」でもあります。これだけのお金、何とかならないものでしょうか？  
いちばん効果のある対策は「ゴミのダイエット」です。  
みなさんの協力で、あるいは知恵と工夫で出されるゴミの量が減ると、それに連れてゴミ処理費も減ります。  
ゴミのダイエット、大いにやってみる価値があります。

## 1、ライフスタイルを一人一人が見直そう

近年のゴミ問題はゴミの出し方を含めて、いかにゴミを減らすかがテーマとなっております。

## 2、ゴミを出すときは分別をしてから

まずできることは、ゴミになるとわかっていない物を家庭に持ち込まないことです。スーパーやデパートの過剰包装もそのひとつ。「これはゴミになるな」と思ったら、なるべく少ない包装にしてもらって家に持ち帰るようにしたいものです。

分別処理とはゴミ処理の効率を高めるために、「燃えるゴミ」と「燃えないゴミ」に分けて収集したり、資源として再利用できる空き缶や古紙などを、別に収集したりする方法です。もし、燃えないゴミが焼

ライフスタイルを一人一人が見直し、ゴミを減らすところでは減らしていく努力をしていきたいものです。

却施設で処理されると、焼却効率を低めるだけでなく焼却炉を痛める結果ともなります。また事前に燃えないゴミを見つけたとしても、それを他の施設に持っていくにはそれなりの経費がかかります。ゴミは分けから出しましょう。



「これから暑っちょー一時季を迎えて大変です」と語る管理人の中野嘉一さん

不燃物がヤマとなっている逆合の最終処分場





福島県三島町長を囲んで

# 三島「同士」マラソン通じ交流

「同じ三島町民同士、仲良くしましょう」と、町走友会のみなさんが、福島県大沼郡三島町までリレーマラソンを行いました。六月十日午前一時、小林

## 無事故を願う

## 安全標識設置

町交通安全母の会では、このほど子供を交通事故から守るため「注意、子供飛び出し」の標識を町内八ヶ所に設置いたします。この経費は、昨年町民の皆さんより納めていただきました



会長 柳 和子 (吉崎)  
副会長 河内チエ子 (脇野町)  
八田由美子 (鳥越)  
なお、他に理事、監事さんがおられます。(敬称略)



## 歴史を後世に...

## 標柱設置

浄福寺(脇野町)駐車場脇に、このほど、写真のような標柱が立てられました。この地には、かつて江戸時代、今の税務署にあたる

その後その建物は、「南学場」と呼ばれる僧侶の勉強の場として復活、やがて地域住民が集まり、説教を聞く場としても利用されるようになり、昭和十九年取り壊されたと言われています。

## 次代の人づくりを世に問う

## 脇野町小学校著「おばあちゃんの明日に」を出版

脇小では六十三年十一月に町内小中二校と共に文部省指定の道德教育研究会を中心に集大成し、三月末に「おばあちゃんの明日に」を出版しました(新潟日報五月十五日号に掲載)。目下県内の学校現場や県外指定校等にあっせん販売中であります。

同誌はこれからの教育のありかた(特にこの教育を指針としている今次改革の方向)への一提言と共に、家庭や地域でのしつけや体験の与え方など示唆した幅広い内容になっています。特に、写真・イラスト等八十余点が配置され、素朴な子供の体験活動を通して耕やされた新鮮なおどろき感動がなまのまま集録されています。どうぞ多くの皆さん、御購読をお願いします。〈体裁と価格など〉・A五判、二〇四ページ・定価二千元

申し込み脇野町小学校まで(電話四二二一〇五四)

### 役場職員の募集について

次により役場職員を募集します。  
一、採用職種・予定人員  
(一)上級職員(一般事務) 若干名  
昭和四十一年四月二日から昭和四十四年四月一日までに生まれた者で、四年制大学卒業(見込)の者  
(二)初級職員(一般事務) 若干名  
昭和四十六年四月二日から昭和四十八年四月一日までに生まれた者で、高等学校卒業(見込)の者  
二、住所要件  
三島町に本籍又は住民登録がしてある者  
三、試験日・場所  
・九月三十日(日)  
・長岡大手高校  
四、申込受付  
七月十八日(水)から八月二十四日(金)まで  
※詳しいことは役場総務課へお問い合わせください。

## 三島まつり 町民大花火にご協力を!

恒例の三島まつりまで、あとひと月余り。まつり委員会では、楽しいまつりとするべく、現在準備を進めています。さて、今年も町民の心を結集した「町民大花火」で真夏の夜空を彩り、まつりのフィナーレを飾りたいと思います。後日、区長、町内会長さんを通じてご寄付のお願いにあがりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。また、同時に「特別寄付」の申し込みも受け付けております。出産、結婚など、ご家庭の慶事の記念にふるって申し込みください。



## 「空き缶、ぼくが捨ててきます」

脇野町小学校 養護教諭青柳健子

五月の風の中、鶴ヶ城を見上げながらおにぎりを食べた、会津若松の旅。毎年行く、六年生との二泊二日の修学旅行です。子供たちにとっては、六年間で一番の思い出になるこの旅行も、教師にとっては、気の張る二日間でもあります。バスに酔う子が少なければよいが、夜、熱を出さなければよいがと、心配の種は尽きません。さて、一日目の見学もスムーズに進み、最後の、松原湖遊覧船乗り場でのことでした。眼下には、美しい湖が広がり、私たちを乗せる白い遊覧船も見えます。ところが、その美しい風景とは裏腹に、私たちの立っている足もとには、空き缶やら紙くずが、あちこち投げ捨てられていたのではないですか。

## 心の窓

私は思わず「まだ、空き缶を投げ捨てている人がいるんだね」と呟っていました。なぜなら、近年「ゴミは道に捨てない」ということが、社会常識として定着しつつあると思うのは、私だけでしょうか。その時、六年生の一人が「し

ようがないですね。空き缶、ぼくが集めてきますよ。」と言って、その缶を拾ってゴミ箱に入れてくれました。バスの中では、この空き缶のことを、色々考えさせられました。あのドライビンが汚なかつたのは、観光地だからというところもあるでしょう(誰も自分の庭には、花を咲かせ、ゴミは捨てないものです)。あの子が、なぜ缶を拾ってくれたかについては、今まで学校で体験した「地区クリーン作戦」や「バス停清掃」などの、ゴミ拾いの行いであろうか。そうであるならば、こんなに嬉しいことはありません。または、この子の家庭での躾が良いのかもしれない。空き缶を捨てないまでも、捨ててある物を拾ってまで捨てること、自分には出来るでしょうか。

この子たちが大人になった時、ゴミを捨てない人ではないか。翌日、バスは、五色沼、白虎隊の飯盛山、漆器会館を見学し、一路三島町へと向いました。この二日間、精進の良かったおかげでしょうか。一人の病人も無く、一粒の雨にもあわずにすみました。はて、さて、来年の松原湖ドライビンの景色は、いかがでしょうか。

### 夏の交通安全運動

7月21日(土)～8月20日(日)

愛車がいやがる酒酔い運転  
安全第一! ヘルメット

...子に教え 親が守って 交通安全...

### 交通安全功労 大桃正次氏

大桃正次さん(脇野町)が、さる五月二十五日、交通安全功労者として関東管区交通安全協会より表彰を受けられました。

大桃さんは、現在町交通安全協会会長を務められており、長年にわたり交通事故防止に尽力された功績が認められたものです。

